

黒潮の影響強く、水温は「**平年並み～やや高め**」で推移
(平成31年1月の海況と今後の予測)

平成31年1月22日
茨城県水産試験場

1 海洋観測結果 (1/10~11: 調査船「いばらき丸」)

- ・水温の平面図を図2~4 (水温, 前月差, 平年差) に、鉛直図を図5に示しました。なお、荒天の影響で、会瀬定線の一部が欠測となりました。
- ・水温は前月と比較すると、0~100m深で著しく降温しました。これは、0~100m深の水温がほぼ一定になっていることから、気温の低下により冷やされた海水が下層水と混ざり合う鉛直混合が起きたためと考えられます。200m深では概ね変化は見られませんでした。会瀬・大洗定線の沿岸側と、犬吠埼定線の沿岸側の一部で昇温傾向でした。
- ・平年との比較では、0~200m深では「平年並み～やや高め」でしたが、200m深の大洗定線の一部で「高め」でした。
- ・会瀬・大洗・鹿島定線の概ね東経141.5° ~142° の範囲で逆潮が観測されました。

2 本県周辺海域の概況 (図1)

- ・黒潮は犬吠埼の南東45マイルを北東に流れています。
- ・本県沿岸域に黒潮から暖水が波及しており、海面は16~18℃の水塊に覆われています。
- ・三陸南部沖に昨年からの暖水塊が留まっており、親潮第一分枝 (先端が北緯40度、東経143度に位置) の南下を阻んでいます。

3 今後1か月の見通し

- ・親潮の勢力が強まる時期ですが、三陸南部沖の暖水塊が今後も留まり、親潮第一分枝の南下を阻むことから、茨城県沿岸域への親潮系冷水の影響はないでしょう。
- ・今後も黒潮の流路は大蛇行状態が続く見込みです。
- ・1か月後の沿岸域の水温は、「平年並み～やや高め」で推移するでしょう。

(参考) 2月の30年平均 (1981-2010) 0m水温 (東経142度まで)
会瀬: 11~12℃台 大洗: 10~13℃台 鹿島: 11~15℃台 犬吠埼: 13~17℃台
詳しい情報は茨城県水産試験場ホームページをご覧ください。

(回遊性資源部 外山 太一郎)

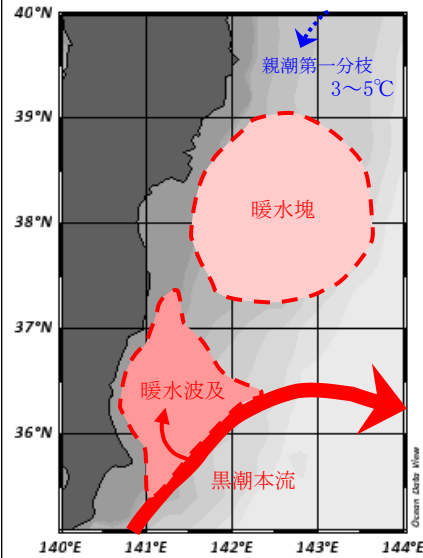
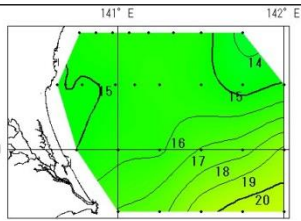
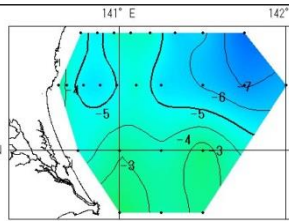


図1. 海面水温の概要 (1月21日)

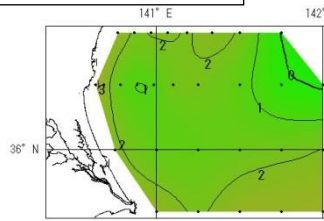
※水温は平年値と比較して、
±1.5℃が「平年並み」、
±1.6~3.9℃が「やや高め・やや低め」、
±4.0~6.0℃が「高め・低め」、
±6.1℃以上が「極めて高め・極めて低め」



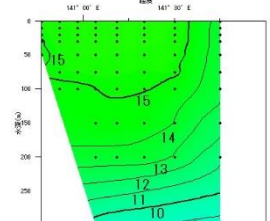
水深0m



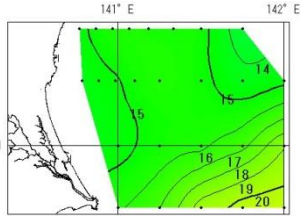
水深0m



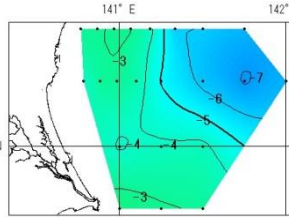
水深0m



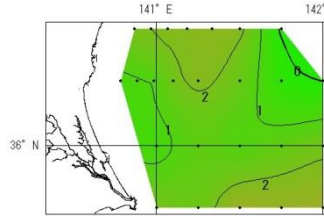
会瀬



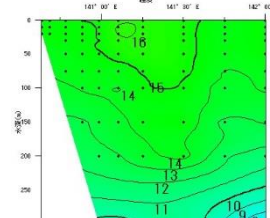
50m



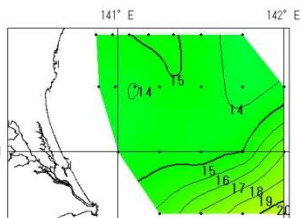
50m



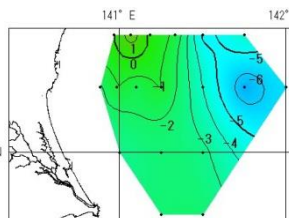
50m



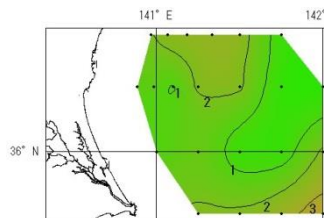
大洗



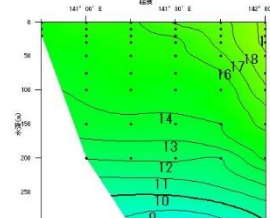
100m



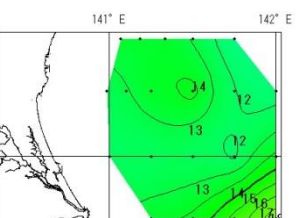
100m



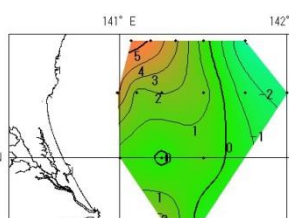
100m



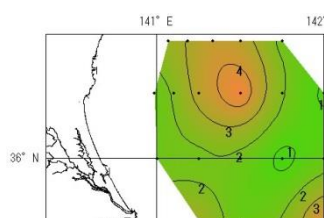
鹿島



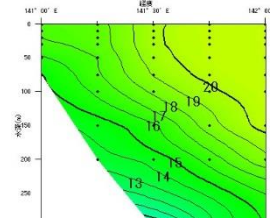
200m



200m



200m



犬吠埼

図2. 層別水温

図3. 水温前月差

図4. 水温平年差

図5. 定線別鉛直水温

【次号予告】 H30.1.29発行の「水産の窓」は、「沿岸資源等談話会の開催」を予定しています。